

令和2年 新しい歴史教科書をつくる会 大阪支部 第17回総会記念講演会

情況と本質——近未来日本の可能性 南木隆治

（はじめに）『近未来日本の可能性』5年後、日本はどうなっているか。大阪の役割。人類史はここで動く。大阪は、日本保守団結の要。東京の保守は纏らない。大阪の役割は重大。自覚すべき事である。今回の「自由社」教科書検定一発不合格だった問題について。「育鵬社」と、その関係者はどういう対応をしたか。どうして「団結」しないのか。大阪だったら違っただろう。安倍首相は、かつては教育基本法を改正して、ここから攻めた。今はすでに「戦場」が変わった。チャイナ共産党を消滅させれば、文部科学省の問題など吹き飛ぶ。

日本がどう動くかで世界史は大きく変わる。最近NHK、家康の東南アジア出兵をやっていた。オランダ、スペインの対立に日本が決定的影響を及ぼした。現在「世界大戦」進行中。戦国時代である。イバンカ女史がクルーナー氏と結婚。斎藤道三の娘 帰蝶が、織田信長に嫁いだこと。

さて、菅義偉（すがよしひで）内閣が9月16日に発足した。

この内閣は安倍内閣の後継内閣と言うよりも、むしろ「中継ぎ内閣」であって、次の第100代の我が国総理大臣はまた安倍晋三氏になる可能性が高い。安倍氏の体調が悪くなつたのは、芝居や、嘘ではなくて。真実だと思うが、安倍氏はその体調の変化を「天の声」として聞いたのだと思う。

菅義偉（すがよしひで）内閣は、安倍首相が外交と、軍事に全力を投入していて、出来なかつた内政問題を何歩も前進させてくれると思う。菅さんになって良かった。岸田、石破 総理はもうないかも。

菅内閣は 国土強靭化、人口問題、立ち遅れたとされるセキュリティ問題、公共投資、等は安倍内閣より進めるので、内需は必ず良くなる。製品の「国産化」はアメリカを追う。可能なら、「拉致問題」の糸口を菅氏ご自身が付けたいはず。二階氏、麻生氏の留任は、不満たらたらが聞こえるがこれで良い。総裁選、菅氏圧勝だったこと。安倍氏の体調が戻らねば、菅政権が続く。以下の話は、私からお聞きの方も多いと思うが、「復習」のつもりで聞いてください。

- ① 日本人は幕末、誰も「自虐史観」に染まっていなかった。「自虐」が好きな日本人は過去へ棄てて、我々は未来へ進もう。カリフォルニア州とアメリカの『因果応報』。多言語。地図。「銃、病原菌、鉄」。
- ② 世界最高性能のコンピューター「富岳」。世界最高性能のレーザーによる、宇宙ゴミの掃除。レアメタル採掘も成功。
- ③ アメリカ「スペースエックス社」のシャトル。ロシアとの関係の根本的变化。宇宙ステーションの意味。
- ④ トランプ再選。安倍再登板でまた6年できる。未来を開く鍵はこの二人。例えトランプ政権が終わっても流れは変わらないが、我が国の「苦難」は何倍にもなる。万が一トランプが負ければ、バイデンが我が国に「核シェアリング」を認めるかどうか不明。バイデンが勝てば「暴落」。99パーセントトランプが勝つ。
- ⑤ 8月15日。大阪護国神社。中山泰秀衆議院議員がお越しだった。「憲法改正は間に合わない、それよりまず核シェアリング」だと南木が話すと「現実路線ですね。」と仰つた。冴えている。政府は戦争のシナリオをもっていると思う。「南木俱楽部」での矢野先生のお考え。ドイツ方式はダメ、イギリス方式でないといけないという話。それからすでに日本は「核実験」を終戦前に完了していたことについて、それが事実であったとして、どうやって現実政治と結びつけるか、考えるべきだと思う。
- ⑥ 核武装までのシナリオが足りない。
- ⑦ 日米英豪印同盟になっていく。大英帝国の復活は必ずある。まずチャイナ共産党を崩壊させなければならない。
- ⑧ 「核シェアリング」こそ最良の「敵地攻撃能力」。日本の「核シェアリング」がNATOと同じ方式になるという前提も取り扱うべき。日本はNATO以上のものをきっとアメリカの要求できる、むしろ問題は国内世論だ。
- ⑨ チャイナ共産党崩壊後、必ずアメリカは混乱期に入る。GAFIA4社でアメリカ連邦政府を超える力をもてる勘違いしている。アップル株価は史上最高値。時価総額トヨタの9倍。
- ⑩ しかしアメリカは、他ならぬそのGAFIAによって、内部から国家が危うくなっている。我が国にGAFIAのような企業が出来なかつた理由は、ほとんど神がかり。平成の30年間成長の停滞に意味はある。
- ⑪ 我が国財務省の問題。1980年代は「円高は株高」だった。「コロナ」によって通貨の本質がばれた。

- (12) チャイナ共産党消滅後、我が国が最も外交上最初にせねばならない事は、もしも「国連」がそのまま残るとなれば「中華人民共和国」の後継国家を絶対に認めてはならないことである。ソ連の後継国家が「ロシア」になった。ウクライナが「うちも後継国家だ」と主張したら世界史は変わっていた。ウクライナに核ミサイルがあり、空母「ワリヤーグ」もあった。ウクライナの人々は数百年に一度のチャンスを逸し、重大な間違いを犯した。チャイナから後継国家は出さない。日本が常任理事国にならねばならない。
- (13) 合衆国弱体化の後は、我が国による第7艦隊買い取りは必至。アメリカ連邦政府は我が国が守る時代が来る。「日本はそろそろ自立」ではなく、本当の認識は、日本が「世界的ヘゲモニー」を握らないと、世界平和は出来ない可能性について、深く自覚し、思いを致すべき。「いつも」、「かが」空母化の意味。
- (14) C P Uの中身の半導体は台湾の「T SMC」と、韓国の「サムソン」。チャイナでは作れない。これを作るには「超高純度」の「シリコンウェハー」と、最高純度の「フッ化水素」が必要。
「シリコンウェハー」は日本の「SUMCO」「信越化学」が世界の大半。「フッ化水素」は「森田科学」ともう一社、両方とも大阪の会社。「T SMC」はアメリカ本土に工場を持っていく。アメリカに多くの湖上が戻りつつある。

その他 裁判の事

①7月2日(木)にフジ住宅裁判の判決が在った。フジ住宅裁判は平成27年(西暦2015年)11月11日が第1回期日。本年令和2年1月30日が第17回期日で、この日が結審。結審まで裁判長は中垣内健治氏。本年7月2日、第18回期日で、判決(森木田邦裕裁判長の代読)

南木は、第7回期日 平成29年(2017)6月29日から傍聴した。そして、第11回期日 平成30年(2018)5月17日の傍聴券の抽選より、ブルーリボンバッジを着用すると傍聴券の抽選を受ける権利もない事になった。

②ブルーリボンバッジ裁判の事

③愛知トリエンナーレ裁判の事

大阪ができる、「ヘイトスピーチ規制条例」のブーメラン。左翼が積み上げた「人権」は本来保守のものだ。日本も、アメリカも「人権」を左翼に取られている。チャイナがやっている事こそ最大の人権侵害だ。左翼は「人権」を使って、自由主義圏の国民の「人権」を奪っている。トランプがやっと戦いを始めた。

竹田恒泰氏は偉い。「国史」教科書を書いた。「次の戦後」を射程に収めている。「国語」「国史」教科書時代は必ず来る。日本は目覚める。日本人には皆、戦国時代の歴史が常識としてあるのだから、今、世界は戦国時代なのだとすれば、世界情勢の分析など、本当に簡単。

(推薦する書籍・最新) 「中学歴史」竹田恒泰(令和書籍) 「日本人よ強かになれ」高山正之(WAC)
 「反日への最後通告」池萬元(ハート出版) 「国際ニュースの読み方」(馬渕睦夫)マガジンハウス
 「アフターコロナ 日本がリードする世界の新秩序」渡邊哲也×エミンユルマズ
 「我、国連でかく戦えり」(ワニ・プラス)藤木俊一 「日本書紀入門」(ビジネス社)竹田恒泰×久野潤
 「パンデミックと漢方」(勉誠出版)渡辺望 「習近平が隠蔽したコロナの正体」河添恵子(WAC)
 「石平の眼 日本の風景と美」石平(WAC)

(推薦する書物)

「逝きし世の面影」(平凡社) 渡辺京二 「銃、病原菌、鉄」。(草思社文庫) ジャレド・ダイアモンド
 「英國諜報員 アシェンデン」(新潮文庫) サマセット・モーム
 「『武漢ウイルス』後の新世界秩序」(ワニ・プラス) 西村幸祐×福山隆
 「三体」(早川書房) 劉慈欣 「日本文化の核心」(講談社現代新書) 松岡正剛
 「新型コロナの正体 日本はワクチン戦争に勝てるか」(ビジネス社) 森下竜一×長谷川幸洋
 「新型コロナ恐慌後の世界」(徳間書店) 渡邊哲也 「知っておきたい和食の秘密」(勉誠出版) 渡辺望
 「コロナ以後中国は世界戦争を仕掛けて自滅する」(徳間書店) 宮崎正弘
 「日本を貶める『反日謝罪男と捏造メディア』の正体(WAC) 大高未貴
 「人類はパンデミックをどう生き延びたか」(青春出版社) 島崎晋
 「日本の心をつくった我が子に教えた武士道精神」(PHP新書) 石平
 (南木が繰り返し推薦する名著) 「隠れていた宇宙 下」(早赤和書房) ブライアン・グリーン 以上